【山崎名誉主宰の俳句】

ゆっくりと

山崎　聰

彼が来る十一月のある晴れた日

やや寒く瞼にのこり一つ星

フクロウがときどき鳴いて夜の底

星ひとつ橋にかかりてきょう寒し

彼彼女そのまた彼氏冬青空

みんないてあくまで寒し今日の空

大声で呼ぶ早春の麦畑

東京の近くに住んで花辛夷

人は病み犬猫あそび春の星

ゆっくりと時間が過ぎてヒヤシンス

秋の陽沈むライオンの檻の前